【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第１区分
【発行日】平成17年10月6日(2005.10.6)

【公開番号】特開2003-329459(P2003-329459A)
【公開日】平成15年11月19日(2003.11.19)
【出願番号】特願2002-138563(P2002-138563)
【国際特許分類第７版】
　Ｇ０１Ｃ　21/00
　Ｂ６０Ｒ　11/02
　Ｇ０８Ｇ　 1/0969
　Ｇ１１Ｂ　31/00
　Ｈ０４Ｎ　 5/76
【ＦＩ】
　Ｇ０１Ｃ　21/00　　Ａ
　Ｂ６０Ｒ　11/02　　Ｃ
　Ｇ０８Ｇ　 1/0969
　Ｇ１１Ｂ　31/00　５４１Ｆ
　Ｈ０４Ｎ　 5/76　　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成17年5月26日(2005.5.26)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
　移動体端末に組み込まれて使用される録画再生装置であって、
　所定の放送チャネルを受信する受信手段と、
　該受信手段により受信された放送チャネルの番組を再生する第１再生手段と、
　前記受信手段により受信された放送チャネルの番組を録画する録画手段と、
　該録画手段により録画された番組を再生する第２再生手段と、
　移動体端末の動作状態を検出する検出手段と、
　外部からの指令に基づいて、前記第１再生手段による番組の再生および前記録画手段による番組の録画を制御する制御手段とを備えており、
　該制御装置は、前記第１再生手段により番組を再生させている状態で、前記検出手段により検出された動作状態が前記第１再生手段により再生されている番組の視聴を妨げる動作状態となったら、前記録画手段によって番組の録画を開始させる
　ことを特徴とする録画再生装置。
【請求項２】
　前記制御手段は、外部からの指令に基づいて、前記第２再生手段による番組の再生をも制御するように構成されており、前記検出手段により検出された動作状態が前記第１再生手段により再生されている番組の視聴を妨げる動作状態となった後、番組の視聴を妨げることのない動作状態に戻った際に、前記第２再生手段によって、前記録画手段が録画した番組のうち、前記検出手段により検出された動作状態が番組の視聴を妨げる動作状態となった以後に録画された番組の再生を開始させる
　ことを特徴とする請求項１に記載の録画再生装置。
【請求項３】

移動体端末に組み込まれて使用される録画再生装置であって、
所定の放送チャネルを受信する受信手段と、
該受信手段により受信された放送チャネルの番組を再生する第１再生手段と、
前記受信手段により受信された放送チャネルの番組を録画する録画手段と、
該録画手段により録画された番組を再生する第２再生手段と、
移動体端末の動作状態を検出する検出手段と、
外部からの指令に基づいて、前記第１再生手段による番組の再生、前記録画手段による番組の録画および前記第２再生手段による番組の再生を制御する制御手段とを備えており、
該制御手段は、前記第１再生手段により再生させている番組を前記録画手段により常に録画させており、前記検出手段により検出された動作状態が前記第１再生手段により再生されている番組の視聴を妨げる動作状態となった後、番組の視聴を妨げることのない動作状態に戻った際に、前記第２再生手段によって、前記録画手段が録画した番組のうち、前記検出手段により検出された動作状態が番組の視聴を妨げる動作状態となった以後に録画された番組の再生を開始させる
ことを特徴とする録画再生装置。
【請求項４】
前記移動体端末はカーナビゲーションシステムであって、
前記検出手段は、当該カーナビゲーションシステムを搭載した車両が走行または停止していることを検出可能に構成されており、
前記制御手段は、前記第１再生手段により番組を再生させている状態で、前記検出手段による検出結果で車両が走行中となったことを、前記第１再生手段により再生されている番組の視聴を妨げる動作状態と判定する一方、前記検出手段による検出結果で車両が停止中となったことを、番組の視聴を妨げることのない動作状態と判定する
ことを特徴とする請求項１から請求項３のいずれかに記載の録画再生装置。
【請求項５】
前記移動体端末は通話機能を有する携帯情報端末であって、
前記検出手段は、当該携帯情報端末の有する通話機能が利用されているかどうかを検出可能に構成されており、
前記制御手段は、前記第１再生手段により番組を再生させている状態で、前記検出手段による検出結果で通話機能が利用されていることを、前記第１再生手段により再生されている番組の視聴を妨げる動作状態と判定する一方、前記検出手段による検出結果で通話機能が利用されていないことを、番組の視聴を妨げることのない動作状態と判定する
ことを特徴とする請求項１から請求項３のいずれかに記載の録画再生装置。
【請求項６】
前記再生されている番組の視聴を妨げる動作状態というのは、前記録画再生装置が有するアプリケーションソフトが起動され、当該アプリケーションソフトの機能により前記第１再生手段により再生されている番組の視聴が妨げられた状態であること
を特徴とする請求項１から請求項５のいずれかに記載の録画再生装置。
【請求項７】
前記再生されている番組の視聴を妨げる動作状態というのは、前記第１再生手段を構成する番組表示部が当該番組表示部を覆い隠す部位によって覆い隠された状態である
ことを特徴とする請求項１から請求項５のいずれかに記載の録画再生装置。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２０】
特に、上述の携帯情報端末に、請求項２または請求項３に記載の録画再生装置が組み込

まれている場合には、通話機能の利用が終了した際に、第２再生手段によって、通話機能の利用が開始された以後に録画された番組の再生が開始される。そのため、通話機能の利用中に受信手段により受信された放送チャネルの番組を、通話機能の利用期間だけ遅らせた状態で視聴することができる。

また、請求項６に記載の録画再生装置は、

前記再生されている番組の視聴を妨げる動作状態というのは、前記移動体端末が有するアプリケーションソフトが起動され、当該アプリケーションソフトの機能により前記第１再生手段により再生されている番組の視聴が妨げられた状態であることを特徴とする。

このように構成された録画再生装置によれば、録画再生装置が有するアプリケーションソフトが起動されて番組の視聴が妨げられる状況になったとしても、視聴が妨げられていた間に受信された番組を、視聴が妨げられなくなった後に視聴することができる。

また、請求項７に記載の録画再生装置は、

前記再生されている番組の視聴を妨げる動作状態というのは、前記第１再生手段を構成する番組表示部が当該番組表示部を覆い隠す部位によって覆い隠された状態であることを特徴とする。

このように構成された録画再生装置によれば、第１再生手段を構成する番組表示部（例えばディスプレイ）が当該番組表示部を覆い隠す部位（例えばカバー）によって覆い隠された状態になることによって番組の視聴が妨げられる状況になったとしても、視聴が妨げられていた間に受信された番組を、視聴が妨げられなくなった後に視聴することができる。